

Asian Pacific Prion Symposium (APPS) 2015 in Kanazawa

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/44223

『学会開催報告』

アジア太平洋プリオンシンポジウム2015

Asian Pacific Prion Symposium (APPS)
2015 in Kanazawa金沢大学大学院脳老化・神経病態学 (神経内科学)
山田 正 仁

2015年9月4日～5日、金沢の石川県立音楽堂で、アジア太平洋プリオンシンポジウム2015 (APPS 2015 in Kanazawa) を開催いたしました。この国際シンポジウムは公益財団法人・難病医学研究財団の平成27年度公募事業として採択され、石川県、金沢市、興和生命科学振興財団の助成、金沢大学十全医学会、厚生労働省・難治性疾患政策研究事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班」(研究代表者：山田正仁)、同「プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班」(研究代表者：水澤英洋先生)、国立研究開発法人・日本医療研究開発機構 (AMED)・難治性疾患実用化研究事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症の分子病態解明・治療法開発に関する研究班」(研究代表者：山田正仁)、同「プリオン病に対する低分子シャペロン治療薬の開発班」(研究代表者：桑田一夫先生)の後援を得て実施されました。わが国を始め韓国、中国などのアジアの国々、オーストラリア、アメリカ、英国から多数の研究者にご参加

いただきました。幸いなことに、2015年3月から北陸新幹線が開業し、金沢へのアクセスは格段とよくなっており、多くの参加者にシンポジウムばかりでなく、金沢の文化や料理を楽しんでいただきました。

ヒトの代表的なプリオン病にはクロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) があります。ウシ海綿状脳症 (BSE) に汚染されたビーフからの伝播による変異型CJDの発生や、ヒト屍体由来硬膜の移植に伴うCJDの多発は大きな社会問題となりました。プリオン病の感染因子プリオンの本体は異常プリオンタンパクですが、最近では、アルツハイマー病やパーキンソン病の脳に蓄積するアミロイドβタンパクやαシヌクレインもプリオンと同様の性質を有し伝播しうることが明らかとなり、大問題になっています。本シンポジウムでは、エジンバラ大学のRobert Will教授に変異型CJDの最新情報について特別講演をしていただき、現在、英国では人口100万あたり約500人にBSEプリオンが潜伏感染しており、輸血や血液製剤等による2次感染が監視されていることなどが報告されました。また、欧米からの講演者をまじえて、世界のプリオン病の実態、異常プリオンタンパクの増幅・検出についてシンポジウムをもち、さらに、さまざまなプリオン研究の最新の成果が発表されました。

この場をお借りしまして、金沢大学十全医学会のご後援、関係各位のご支援に心より感謝いたします。

